

科目コード/科目名 (Course Code / Course Title)	MB081/プロジェクト研究A1 (Research Project A1)		
テーマ/サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際的な人の移動と交流/日本とバングラデシュ間の事例 (Global Migration and Transnational Relations: A Case of Japan and Bangladesh)		
担当者名 (Instructor)	水上 徹男(MIZUKAMI TETSUO) 木村 自(KIMURA MIZUKA) 太田 麻希子(OTA MAKIKO) 中山 由佳(NAKAYAMA YUKA) 吉成 勝男(YOSHINARI KATSUO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5040	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

グローバルな人の移動が進展する中で形成されたエスニック・コミュニティの変貌やホスト社会への影響などを調べる。また、一定期間の外国滞在後に帰国したケースも含めたネットワーク形成のあり方も対象とする。調査の計画や実施、分析、報告書作成などのスキルの向上。実際に調査の計画を立て、経験することで、調査を実施するまでに必要な事項や、分析に至るまでを学ぶ。専門論文の作成にあたって、調査の方法論などを経験的に学ぶことができる。

授業の内容 (Course Contents)

日本国内のエスニック・コミュニティと帰還者とのトランスナショナルな絆、移住者を送出した国(バングラデシュ)の変化、日本とバングラデシュの両国に関連する組織活動等、国内とダッカでのフィールドワークを行う。外国人居住者支援にかかわる NGO を通じて、聞き取り調査等、トランスナショナルなネットワークの構築を調べる。より具体的には、1980年代後半に国内で急増したバングラデシュ出身者への聞き取り調査を中心に、日本とバングラデシュのかかわりに注目する。

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献講読 I: 対象となる地域やエスニック社会にかんする文献を講読
3. 文献講読 II
4. 文献講読 III
5. 文献講読 IV: インタビュー等の方法論を学ぶ
6. 文献講読 V
7. 中間発表 I
8. 中間発表 II
9. 調査企画 I: 先行研究のまとめとそれぞれの調査計画を設定する
10. 調査企画 II
11. 調査企画 III
12. 調査企画 IV
13. 中間報告 I
14. 中間報告 II

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

調査の方法論や調査倫理および社会学の基礎理論について、予め学習していることが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)/授業時間内の討論や研究報告(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 吉成勝男・水上徹男・野呂芳明、2015、『市民が提案するこれからの移民政策—NPO 法人 APFS の活動と世界の動向から』、現代人文社
2. APFS 編、2002、『子どもたちにアムネスティを——在留特別許可取得一斉行動の記録』、現代人文社
3. 長谷安郎・三宅博之編、1993、『バングラディッシュの海外出稼ぎ労働者』、明石書店
4. International Organization for Migration (IOM). 2014. IOM Bangladesh. IOM
5. International Organization for Migration (IOM). 2014. The International Organization for Migration in Brife. IOM
適宜指示する。また、授業内でプリントを配布する。

参考文献 (Readings)

1. Smillie, Ian. 2009. Freedom from Want. Kumarian Press
 2. Vertovec, Steven. 2009. Transnationalism (Key Ideas). Routledge
 3. Vinken, Henk, et al. (eds.). 2010. Civic Engagement in Contemporary Japan. Springer
- 適宜指示する。また、授業内でプリントを配布する。

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード/科目名 (Course Code / Course Title)	MB082/プロジェクト研究A2 (Research Project A2)		
テーマ/サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際的な人の移動と交流/日本とバングラデシュ間の事例 (Global Migration and Transnational Relations: A Case of Japan and Bangladesh)		
担当者名 (Instructor)	水上 徹男(MIZUKAMI TETSUO) 木村 自(KIMURA MIZUKA) 太田 麻希子(OTA MAKIKO) 中山 由佳(NAKAYAMA YUKA) 吉成 勝男(YOSHINARI KATSUO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5040	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

グローバルな人の移動が進展する中で形成されたエスニック・コミュニティの変貌やホスト社会への影響などを調べる。また、一定期間の外国滞在後に帰国したケースも含めたネットワーク形成のあり方も対象とする。調査の計画や実施、分析、報告書作成などのスキルの向上。実際に調査の計画を立て、経験することで、調査を実施するまでに必要な事項や、分析に至るまでを学ぶ。専門論文の作成にあたって、調査の方法論などを経験的に学ぶことができる。

授業の内容 (Course Contents)

日本国内のエスニック・コミュニティと帰還者とのトランスナショナルな絆、移住者を送出した国(バングラデシュ)の変化、日本とバングラデシュの両国に関連する組織活動等、国内とダッカでのフィールドワークを行う。外国人居住者支援にかかわる NGO を通じて、聞き取り調査等、トランスナショナルなネットワークの構築を調べる。より具体的には、1980年代後半に国内で急増したバングラデシュ出身者への聞き取り調査を中心に、日本とバングラデシュのかかわりに注目する。

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス：秋学期の進め方およびフィールドワークのスケジュールなど
2. インタビューおよび質問票調査の検討I
3. インタビューおよび質問票調査の検討II
4. 実地調査(国内)I：フィールドワークおよびインタビュー、質問票調査を実施
5. 実地調査(国内)II
6. 実地調査(バングラデシュ)I：フィールドワークおよびインタビュー、質問票調査を実施
7. 実地調査(バングラデシュ)II
8. データ検証I
9. データ検証II
10. データ検証III
11. 中間報告 I
12. 中間報告 II
13. 報告書作成I
14. 報告書作成II

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

調査の方法論や調査倫理および社会学の基礎理論について、予め学習していることが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%) / 研究報告や調査活動(40%)

テキスト (Textbooks)

プロジェクト研究A1参照。
適宜指示する。

参考文献 (Readings)

プロジェクト研究A1 参照。
適宜指示する。また、授業内でプリントを配布する。

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

プロジェクト研究A1を履修していること。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB083／プロジェクト研究B1 (Research Project B1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「デジタル社会学」のサーチデザイン		
担当者名 (Instructor)	木村 忠正(KIMURA TADAMASA) 和田 伸一郎(WADA SHIN'ICHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5040	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

いわゆるソーシャルメディアの日常生活への浸透、社会全体の情報ネットワークに伴うビッグ・データの拡大などを背景として、「デジタル社会学」と呼ばれる分野が興隆しつつある。本プロジェクト研究では、社会調査に利用可能なデータが量および質において多様に展開している状況において、「デジタル社会学」としての調査研究をどのようにデザインするのかについて、具体的な分析方法とともに探索的に考察することを目的とする。

授業の内容(Course Contents)

ソーシャルメディア・ログデータをもとに、大規模でかつ豊富な特徴を備えたデータの分析方法について学ぶ。春学期は主に理論的な側面と分析例と方法論の学習を中心とする。

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献講読(1)デジタル社会学について
3. 文献講読(2)ハイブリッド・メソッドについて
4. 文献講読(3)ビッグデータ、ビジネスインテリジェンスについて
5. ビッグデータ解析方法論(1)ソーシャルメディアログデータ
6. ビッグデータ解析方法論(2)R, Python, 各種ソフトウェアなど解析ツール
7. ビッグデータ解析方法論(3)テキスト・データの分析
8. ビッグデータ解析実践(1)
9. ビッグデータ解析実践(2)
10. ビッグデータ解析実践(3)
11. 分析報告とディスカッション(1)
12. 分析報告とディスカッション(2)
13. 分析報告とディスカッション(3)
14. 春学期総括と秋学期作業に向けての検討

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

本プロジェクトでは、ビッグデータ解析を初め、一方で、統計的手法、情報工学的手法を積極的に用いるとともに、テキストデータに関しては質的調査の方法論もとりいれる。履修者には、社会調査の方法論、ソフトウェアの操作を含むデータ分析法について深く学習するとともに、サーチを自らデザインし実施する積極性が求められる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 授業期間内の作業(30%) / プレゼンテーション(30%)

テキスト(Textbooks)

授業内で指示する。

参考文献(Readings)

1. Deborah Lupton. 2014. Digital Sociology. Routledge (ISBN:1138022772)
 2. Jessie Daniels et al. 2016. Digital Sociologies. Policy Press (ISBN:978-1447329015)
 3. 木村忠正, 2018, 『ハイブリッド・エスノグラフィー』, 新曜社
- そのほかは授業内で指示する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB084／プロジェクト研究B2 (Research Project B2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「デジタル社会学」のリサーチデザイン		
担当者名 (Instructor)	木村 忠正(KIMURA TADAMASA) 和田 伸一郎(WADA SHIN'ICHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5040	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

いわゆるソーシャルメディアの日常生活への浸透、社会全体の情報ネットワークに伴うビッグ・データの拡大などを背景として、「デジタル社会学」と呼ばれる分野が興隆しつつある。本プロジェクト研究では、社会調査に利用可能なデータが量および質において多様に展開している状況において、「デジタル社会学」としての調査研究をどのようにデザインするのかについて、具体的な分析方法とともに探索的に考察することを目的とする。

授業の内容(Course Contents)

ソーシャルメディアログデータをもとに、大規模でかつ豊富な特徴を備えたデータの分析方法について学ぶ。秋学期はリサーチデザインについて文献により学習した上で、具体的な調査研究課題を設定し、ソーシャルメディアログデータを取得し、分析、レポートにまとめるという、一連の調査プロセスに根ざした実習を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献講読(1)リサーチデザインについて
3. 文献講読(2)データ収集・分析アプローチの選択
4. 文献講読(3)データ・マネジメント、調査倫理について
5. リサーチ・デザイン(1)問題設定・仮説構成
6. リサーチ・デザイン(2)データ収集・分析アプローチ
7. リサーチ・デザイン(3)計画報告とディスカッション
8. データ解析実践(1)
9. データ解析実践(2)
10. データ解析実践(3)
11. 分析報告とディスカッション(1)
12. 分析報告とディスカッション(2)
13. 分析報告とディスカッション(3)
14. 全体総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

本プロジェクトでは、ビッグデータ解析を初め、一方で、統計的手法、情報工学的手法を積極的に用いるとともに、テキストデータに関しては質的調査の方法論もとり入れる。履修者には、社会調査の方法論、ソフトウェアの操作を含むデータ分析法について深く学習するとともに、リサーチを自らデザインし実施する積極性が求められる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 授業期間内の作業(30%) / プレゼンテーション(30%)

テキスト(Textbooks)

授業内で指示する。

参考文献(Readings)

1. Deborah Lupton. 2014. Digital Sociology. Routledge (ISBN:1138022772)
2. Jessie Daniels et al. 2016. Digital Sociologies. Policy Press (ISBN:978-1447329015)
3. 木村忠正、2018、『ハイブリッド・エスノグラフィー』、新曜社
そのほかは授業内で指示する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))